



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2025年(令和7年)9月5日号 No.2000

目次

■ インドの原油“錬金術”の行方	1
■ 統計速報	7
2025年1～6月のロシアの貿易 / 7	
■ エトセトラ	8
情報提供セミナー「制裁下ロシアにおける国際送金とオーバーコンプライアンス問題」 / 8	
■ トピックス	8
岩屋外相、カザフ・ウズベクを訪問 / 8	
東洋エンジニアリング、トルクメンのガス化学コンプレックス事業を受注 / 8	
中ロ、新たなガスパイプライン建設で合意 / 9	

インドの原油“錬金術”の行方 —ロシアとの貿易が生む地政学的緊張—

(一社)ROTOBO ロシアNIS経済研究所
部長 齋藤 大輔

はじめに

トランプ米政権は8月27日、インドがロシアから原油や石油製品を購入していることを理由に、インドからの輸入品に課している追加関税を50%に引き上げた。欧州連合(EU)は7月18日、対ロ制裁強化の一環として、インドを念頭に第3国で製造されるロシア産原油を原料とした石油製品の輸入を禁止する方針を決定した。ロシアによるウクライナ侵攻以降、インドはロシアからの石油輸入をどれほど拡大させてきたのか。また、EU向けの石油製品輸出をどれくらい増やしているのか。

そこで今号では、インド商業産業省の貿易統計をもとに、ロシアからの原油・石油製品の輸入とインドによる石油製品の輸出動向を紹介する。

1. 印ロ・印米貿易の概況

まずは印ロ・印米の貿易関係を見てみよう。インド商業産業省が発表した貿易統計によると、昨年1年間のインドとロシアの貿易額は706億1,163万ドルに達し、前年から9.2%増加して過去最大を更新した。ロシアとの貿易額は、2021年の115億7,901万ドルから侵攻が始まった2022年は3倍超の369億1,583万ドルに急増し、2023年には646億4,259万ドルへとさらに拡大していた。

インドは、ロシアによるウクライナ侵攻と西側諸国によるロシアへの経済制裁を巡り、西側と良好な関係を保つ一方、制裁に加わらずロシアとも良好な関係を維持している。2024年も、米欧がロシア